

## 編集 後記

論文が陽の目を見るには、二つの山を越えなければならないようである。一つは、公衆衛生学的な問題解決に成功したと思われること、もう一つは、まとめた論文が査読者に認められることである。

この夏に、私が少なからぬ影響を受けたお二人の先生が相前後して身罷られた。お一人は、KJ法の創始者川喜田二郎先生、もうお一人は、AICの発案者赤池弘次先生である。お二人の訃告にわずかでも接することができた私は幸運である。

KJ法もAICも、現場から生まれた発想技法であり判断規準である。

お二人に共通する精神がいくつかある。手本のない本物の問題に取り組むべし。先人の業績を渉猟し尽くし、大いに利用すべし。そしてなお未解決な点があれば、自らフィールドや現場へ赴き、得られるデータは貪欲に手に入れよ。そのデータを前に、川喜田先生曰く「データをして語らしめよ」、赤池先生曰く「与えられたデータからモデルを考えよ」。このようにして仮説を得る過程が「発想」であり「モデル選択」であるらしい。その仮説を問題解決に応用し、首尾よくいった成功の体験を重視する点も共通している。

編集委員会に出席してみて気付いたのだが、査読者からの指摘の少ない論文は、公衆衛生の現場で、上記のような精神で取り組んだことが見事に表現されているという論文である。また、何回かのやり取りのあと修正されて掲載にこぎつけられた論文も、これらの条件を満たすように仕上がっている。

現場での成功で一つ目の山を越えた学会員は躊躇することなく、手元のデータを整理してパブリッシュするために第二の山に向かうべきである。第二の山を越えるためには「表現」という公衆衛生学的センスとはやや趣の異なった能力が必要になる。私はそんな時、KJ法を問題解決だけでなく表現力向上にも利用して大いに助かっている。お手持ちの成功体験を論文にして、本誌への投稿をお願いしたい。

(那須郁夫)

## 次号予告 (第57巻・第1号)

### 原 著

- 在宅介護継続配偶者介護者における介護経験と精神的健康状態との因果関係の性差の検討  
.....杉浦圭子, 他
- ベイズ推定の医療費地域差指数への適用  
.....高橋邦彦, 他
- 「行政保健師の職業的アイデンティティ尺度」の開発と関連要因の検討.....根岸 薫, 他

### 短 報

- 9か月間の二酸化硫黄曝露による三宅島小児住民の呼吸器影響.....岩澤聡子, 他

### 資 料

- 「中核市」移行に対する住民期待の変化とくに保健所新設にかんして  
.....星子美智子, 他

### 連 載

- 運動・身体活動と公衆衛生(2).....小田切優子  
保健師助産師看護師法の改正と保健師教育の展望(5).....多田敏子, 他